

《コーディネーター 森口健司》

やっぱり、人権教育のよろこびは出会いです。すごい人と巡り合える。それを噛みしめた昨年の「人権を語り合う中学生交流集会」がよみがえってきます。本気で語る。本気で聞く。そのやり取りが生きる力になって、人生が変わっていきます。これが人生のよろこびになるんだろうと思います。

今年5年目になりますけど、「T-over人権教育研究所・人権こども塾」を立ち上げた吉成さんの思いもそこにあります。ではこの後、吉成さんに語ってもらいます。皆さん拍手をお願いします。(拍手)

《パネリスト 吉成正士》

今年のフォーラムで伝えたいこと

吉成です。失礼します。(色々なことに思いを巡らせながら)話したいことがいっぱいあるんですけど、去年くらいから今日何をしゃべろうかと考えていたんです。例えば去年でしたら谷村新司さんが亡くなられたでしょう。それで、谷村新司さんことをしゃべりたいなと思っていたんですよ。でも、今年の3月に父が亡くなって、やっぱり父との関係性のことを明らかにしておく必要性があるだろうなということで、父のことをしゃべろうかなと思つたりもしていたんです。

丁度さっき、中野伸二さんが家族のことを話してくれたので、家族のこともしやべっておきたいなとか、先月行われた「人権を語り合う中学生交流集会」のこととか、これからのこととか、しゃべりたいことはいっぱいあるんですが、全部しゃべればきりがないので。

保育所の先生から気づかされたこと

(挙手を促し確かめるように)会場に保育所関係の方って何人かおいでます?保育所で勤めていたとか。お一人ですか。昔こんなことを学んだことがあって。どんなことかと言いますと、それこそ、同和教育って言っていた時代のことなんんですけど、「保育所ではみんなで手を洗うことから。それがスタートなんです」と聞いたことがあります。当たり前の話だと僕は思っていたんですけど。

それこそ昔は、「同和の子、地区の子は汚い」。本当は汚くないんやけど、こんなふうに汚いって言われてきた子どもちらは同和の子、地区の子とは手をつながないっていう意識が先に入ってるって言われるんです。いや、そうじゃないっていうことを、保育所の段階で子どもらに教える意味で、「みんな、ちゃんと手を洗っているもんね。手、きれいやもんね。手をつなげるよね」というところからが、同和保育、同和教育のスタートなんですよという話を、保育所の先生から30年くらい前かな、聞いたことがあったんです。ああ、なるほどなあと思って、そこからスタートかと思って。

他にもためになる話はたくさん伺ったんですけど、そんなことを保育所、幼稚園、小学校の低学年、中学年、高学年と積み上げて行って、私は中学校の教員ですが、中学校での同和教育、今でいう人権学習があるんだなあと思ったんです。

年代に応じた学びの上にある中学校の積み上げ

～人権教育のハードルを上げているのは誰?～

つまり、逆な言い方をすると、そこまでが全く抜け落ちていては、中学校の人権学習は入っていないよということです。そんなことすら、当時私は教員としてわかつていなかつたので、聞いて初めて、「ああ、それはそうだなあ」みたいに思ったんです。年代年代に応じて、大切で必要なことをきちんと学んでいくって、初めて中学校年代の積み上げがあるんだよということなんですね。

なぜこんなことを思ったかといったら、私も今、実感としてあるんですけど、人権教育のハードルが高い気がするんです。これもそれぞれの感じ方ですから、それそれでいいんですけど、(身振り手振りを加えながら)私は、なんか同和問題、人権学習についてはハードルが高い気がしているんです。私の感覚がおかしいのか、それとも本当にそうなのかということがよくわからないんですけど、もし、本当にそうだとすればそれはよくないのではと思っています。

(自分の中で、発言の確認をしながら)さっき、中野さんも言っていたように、ハードルが高いのであれば、高くしているのは誰かということです。高くしているのは何なのかということです。とするならば、学校の教員っていうのは、すごく大きなウエイトを占めているんだろうなっていう気がするんです。

例えば、いじめを受けた。その相談を担任の先生や学校の先生にできない。ハードルが高いなあ。例えば、性的な違和感がある。そのことを担任の先生に言えない。学校の先生に言えない。ハードルが高いなあ。じゃあ、そのハードルを上げているのは何なんだろうか、誰なんだろうかということを、もしかするとちゃんと見極めないと、学校自体が何かおかしな方向へ行っちゃいやせんかなという、危機感を持っています。

そう思っているのが、世界中で私一人だけならいいんですけども、もしかして、他にもそういうふうに感じられている方がいるのであれば、そこは考え方を直さなければいけないのかもしれません。そんな気がしています。

「強制不妊訴訟」と「優生保護法」

(再度挙手を求めるながら)それの一環として、これも手を挙げてもらえますか? 「強制不妊訴訟」って聞いてピンとくる方ってどれくらい居られます? じゃあ、「旧優生保護法」って聞いてピンとくる方。中高生の人にそれをわかれっていうのは無茶な話なんで、わかっていないなくてもそれはそれでいいんですよ。6月くらいかな。新聞紙上とかニュースとかでよく出だしたのは。もっと前から出ていたんですけど。やっぱり、ああいうのがニュースとか新聞で出てきたら、学校で、教室で、話してほしいですよ。思いません? 私だったら話してほしいなって思うんです。

みんなが私のような人間ではないですから、別にそれはそれで構わないんですけど、20ぐらい教室があつたら、半分くらいは話して欲しいと思いません? 半分は言い過ぎかもわかりませんが、3分の1くらいは話をしてほしいと思いません? せめて、さっき言った言葉が、漢字に変換できるくらいはあって欲しいなと思いません?

(力を込めて)これね、職場で聞いたんです。でも漢字に変換できない。言葉も知らない。ニュース、新聞に載っていることすら知らない。ショックだったんです。「えええ?」と思って。それは年齢構成もあります。20代の先生もいれば、50代の先生もいる。学級担任の先生は20代、30代、40代とかまで若いので。けどまあ、漢字変換のできないのにはびっくりしました。

若い先生たちに願いたいこと

けどね、聞いたらわからないでもないんです。だってね、家にテレビがない。新聞も取ってない。ドキッとした方もおいでるかもしれません。うちの子どもも、27歳と24歳になっていますけど、それぞれ1人暮らしをしていますけれども、新聞は取っていません。テレビも見ません。うちの学校の若い先生も、同じです。(笑顔で)親御さんと住んでいる子らは、新聞は取ってあったりしますけど、見るかといったら見ません。ネット社会なんですかね。「どうやって情報を入れるの?」って聞いたら、「ネットでわかりますよ。そんなの。」と言います。

それはネットでわかりますけど、ネットでは自分に関連しているニュースしか出てきにくいでしょう。しかも、検索をきちっとしなかったら詳しいことなんか出てきません。関心のないことやなと思ったら見ないじゃないですか。（しみじみと）「ああ、若い先生は、これはそうやわなあ」と思うんです。けどね、戦後最大の人権侵害って言われている「強制不妊訴訟」のことなんか、せめて知っていて欲しいと思うんです。教室で子どもに話をしてやって欲しいなと思うし、それがいかに愚かしい、情けないバカげたことであるのか、なぜにそれが今まで続いて来たのかということは、やっぱり知っておいて欲しいと思うし、子どもに伝えて欲しいと思うんです。

勉強をさせることと学力が上がること

今日来ていませんけど、先月、「人権を語り合う中学生交流集会」に高校生が来ていて、（隣のコーディネーターと確認し合うように）有井君という、鳴門渦潮高校の1年生の子が「優生保護法」をネタに中学生に話をしてくれたんです。「これ、先生に欲しい」と思いましたね。高校1年生でちゃんとアンテナを張って、そのことを知って、ちゃんと中学生に向けて話をしてくれるという。やっぱり先生もそうあって欲しいと思いますね。

(笑顔で前の中学生たちに問いかけるように)中高生、学生の皆さん。点数をたくさん取るように言われません？「頑張って点取りや」って言われません？点数取れって言われて勉強して点数の上がる子もいるかもしれません。けど、みんながみんな上がっているように思えません。実感です。最近県外の人と話をする機会があったんですけど、(声色を使いながら、よりリアルに伝えようと)「うちの学校はね、もう、点数を上げろ、点数を上げろって言われるから、仕方なしに点数を上げれるような勉強をしているんですね」「ああ、そうですか。大変ですね。それで点数上がりましたか？」「それが全然上がりませんねん」こんな会話です。そんなものの意味がないと思います。

全然違う人ともこの前こういう話をしたんです。ある学校は、市長さんが「1学期は7月31日までにする。午前中4時間授業して給食を食べて帰る」と言われたそうです。それはなぜかというと低学力を克服するため。そんな市に転勤はしたくないと。それはそうですよね。夏休み少ないですね。「それで成果があったん？」って聞いたら、「全然！」って。

「やる気スイッチ」は人権教育の中に…

～語る人も語れない人も語られた言葉に自分で考え始める～

では、勉強をさせているのにどうして点数が上がらないのか。勉強をしていたら点数が上がるはずでしょう。全てとは言いませんけれども、上がっている子もいるかもしれません。(精いっぱいの力を込めて)それで、私がいつも思っているのは、「やる気スイッチ」は人権学習にあるって思っているんです。もうちょっと踏み込むと、みんなで語り合う人権学習に「やる気スイッチ」があるというのが実感です。

みんなで語り合う人権学習と学力の向上が、皆さんはそこで結びつくとは発想として思わないと思うんです。(身体中で一言一言を問いかけるかのように)感覚的に結びついている人間はこの会場に4人くらいはおりますよ。他にもフロアにおいでるかもしれませんけども、今から結びつくかと思います。結びつかないかんも知れませんけれども。みんなで語り合うと、語る人もいます。語らない人もいます。でも、語る人の話を聞いていると、みんな自分に落とし込んで考えようとするんです。特に、本当に自分のしんどかったこと、苦しかったこと。いじめにあったこと。差別にあったこと。そんなことをしゃべる子を目の当たりにしたら、じゃあ、自分にとってそんなことって何なんだろうって考えると思うんです。

(ゆっくりと丁寧に)みんなとは言いませんが、多くの人が考えると思うんです。そうすると、みんな自分に落とし込んで考えようとするから、自分を見つめようとすると思うんです。自分を深く見つめて、自分のことについて考えるんだと思うんです。自分のことについて考え始めたら、人間って、「自分はこの後どんな人生を送って行こうかな」とか、「自分の夢って何なんだろうか」とか、「自分の本当の生き方って何なんだろう」とか、自分のことについていっぱい考え始めると思うんです。今までの中学生を見ていて。

自分を考え始めるところから始まる将来への自分のこと

それを考え始めた時に自分の目標が定まっていくというか、自分の将来像が見えてくるというか。そうなると、周りから勉強せえ、勉強せえって言われなくても、自分で考えますから「じゃあ、ちょっと勉強しようかな」「ああ、自分はこんなことに頑張ってみようかな」そう思っていったような気がします。

(切々と)でないとね、中学校時代不登校だった子が、ダントツ1位にはならないですよ。高校受験でボーダーラインギリギリで、行けるかどうかわからなくて、それでも頑張って行った子が、高校に入学してすぐに1番にはならないですよ。おかしいでしょう。ギリギリで入ったらビリじゃないですか。何で1番になるんですか。徳島市立高校の理数科に行きたいんだけどって相談したら、「お前に行けるわけがない。その学校は付属の子が行くようなところだ」って言われて、意地になって行った子が、どうして現役で東京大学に合格しますか。不思議やなと思うんです。勉強せえ、勉強せえと言われて、点数の上がる子もいるかもしれないけれど、上がらない子もいる。

なのに、人権学習でみんなが語り合っていったら、なぜみんなが勉強をし始めるか。不思議なことです。これは、またいろんなところから話を聞かせてもらえたと思うんですけど、できればそんな感覚を共有できたらと思います。私の話は以上です。(拍手)